

#### D)ビリルビン値の上昇が自己免疫性溶血性貧血が原因であった例

直近半年で、特に自覚症状も無く総ビリルビン値が、1.0 mg/dL>から 3.0 mg/dL に上昇した。間接ビリルビン有意の上昇で、ALT,AST 値は正常、肝障害のマーカーはすべて陰性であった。ビリルビン値の上昇も軽度であり、当初体質性黄疸で経過観察と考えた。しかし貧血が漸次増強し、Hb 値は 9.0g/dL>を示し、フェリチン値は正常で鉄欠乏性貧血は否定的で、EPO 値の上昇から腎性貧血は否定できた。直接クームス試験をチェックしたところ陽性を示し、自己免疫性溶血性貧血の診断で、血液内科へ紹介した。